

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、NUMO 職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと記載しています。
- ・ NUMO の職員、ファシリテーターの方の氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

寿都町 対話の場（第5回）会議録

1. 日時：2021年12月14日（火）午後6時30分から午後8時41分
2. 場所：寿都町総合文化センター ウイズコム
3. 会議録

（1）開会・挨拶

○NUMO

改めまして皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、ただ今より、寿都町対話の場を開催いたします。私、事務局：NUMO寿都交流センターの末木でございます。いつも大変お世話になっております。

本日は、年末の非常にお忙しい中でございますが、13名、ご出席を賜ってございます。ご多忙の中ご出席をいただきまして、心より御礼申し上げます。それでは、貴重な時間を頂戴しておりますので、早速、会を進めてまいりたいと思います。

まずは前回、11月10日に遡りますが、第4回対話の場にていただきました、「町の皆さんが集まりやすい機会を工夫していただけないか」というご意見につきまして、事務局よりご報告等させていただきたいと思います。

なお、会の後ほどに、皆さまによる意見交換の場をご予定しています。その場までは、このまま公開で進めさせていただきたいと思います。その意見交換の場で、これからご報告等いたします内容につきましても、ご質問等ございましたら、その場で忌憚のないご意見、ご質問をいただければと思いますので、併せましてよろしく願いいたします。

それでは事務局：NUMO寿都交流センターの土屋から、まずはお話しさせていただきたいと思います。

○NUMO

皆さん、こんばんは。NUMO寿都交流センターの土屋でございます。お手元にお配りさせていただいている資料、こちらの画面にも投影していますので、これにてご報告とご提案をさせて

いただこうと思っております。

まず、「皆さまにお集まりいただきやすい機会づくり」ということなんですけども、昨年からの私たちの活動、町と一緒にやらせていただいている対話の場事務局として、または、NUMO単独として、このような活動をやってきました、というご報告でございます。まずチラシ、それから「TVSテレビすつつ放送」でも、様々ご案内をさせていただきました。また、イベントにつきましても、町民説明会で地層処分事業のご説明をさせていただいたり、お子さま向けイベントというのは、NUMOとしてNUMO寿都交流センターでイベントを開催させていただいたこともございます。その他の活動としましては、「こどもSOSステーション」とか、地域社会の一員として活動をさせていただきました。

これまで約1年間、私たち色々試行錯誤して対応させていただいた訳ですが、反省として2点ございます。1点目は、特にお子さま向けイベントでは、NUMO主催として交流センターでイベントをやったものですから、町民の皆さまより、「交流センターに入りにくい」、皆さんの目があって「ちょっと興味があるんだけど、入りにくいんだよな」との話しをよく伺ったところがございます。また、ご質問に対する回答を私たちがしても、「なかなか回答が分かりにくい、もっとやさしい言葉で回答できないのかな、言ってくれないのかな」という話をよくいただいた、ということがございます。

このことを踏まえ、今回、機会づくりということで、案をご提示させていただきたいと思っております。こちらは、会員の皆さまのご意見をよろしく願いできればと思っております。まず、町の皆さまが賛成・反対なく、気軽に皆さまが一同に集まれるような施策をしていきたいと思っております。例えば、著名人、この人だったら行っちゃおうかな、というふうに町民の皆さまが思っただけのような方を講師に招聘した講演会や各種イベント。例えば環境、エネルギー、まちづくりについて、そのようなイベントを開催できたらと思っております。また次に、お子さま向け、小中高生に向けた体験型イベント。こちらは、後ほどNUMO広報部から一例として、「こんな活動をNUMOとしてやっています」というご紹介をさせていただこうと思っております。

このような施策を積み重ね、皆さまが集まるような状況を作っていければと考えているところでございます。そういうことで、私どもNUMOや、NUMOが行っている地層処分事業について、より身近に、近いものとして感じていただけるような機会を作っていきたいと思っております。

大きくもう1点目につきましては、「NUMOに質問しても回答が分かりにくい」という町民の皆さまからのお話しについて、「この1冊を見れば、町で行われている文献調査、今NUMOとしてはこういう活動をしていますよ」というところを、町民の皆さまにパンフレットという形で作成いたしまして、町内に配布していきたいなと思っております。

このような施策、活動を積み重ねまして、私たちNUMOの職員と町民の皆さまが交流できるような機会を積極的に設けて、よりNUMOを、また、地層処分事業を、身近に感じていただきながら、説明会にも気軽に、気楽にご参加いただけるような環境を作っていければと思っております。

その次のページをご覧くださいできればと思います。これはパンフレットのあくまでイメージでございますが、例えば、「寿都町内での文献調査まるわかりガイドブック」のような名称のパンフレットを作成して、文献調査について、例えば図解や写真を織り交ぜながら詳しく分かりやすく説明していきたいと思っております。よくあるご質問につきましては、これまで対話の場でご質問いただいたこと、または、町民の皆さまから日頃からご質問いただいている回答につきまして、できるだけやさしく分かりやすくまとめていきたいと思っております。それから、これまでの対話の場での皆さまの取り組みのご報告について盛り込んだものを、配布できたらと思っております。ご報告は以上でございます。

○NUMO

ただ今お話しさせていただきました中身につきましては、冒頭申し上げました通り、後ほど意見交換の場におきまして、忌憚のないご意見、ご質問等、頂戴できればと思っております。

続きまして、今のお話の中に出てまいりましたが、特にお子さま、小中高生向けになるかどうかと思いますが、現在NUMOでも実際に取り組んでいる広報活動、この中身をご紹介させていただきたいと思っております。こちらはNUMO広報部からお願いしたいと思っております。では、よろしくお願いいたします。

(2) 小中高校生向けのNUMOの広報活動について

○NUMO

皆さん、こんばんは。NUMO広報部の中山と申します。日頃は報道機関の対応でこの対話の場にはお邪魔しているのですが、今日はご説明も兼ねてということで、二足のわらじで対応したいと思っております。

NUMOの広報部は、大きく3つの仕事をしています。1つ目は、今申し上げた報道機関の対応、2つ目がマスメディア、例えばホームページや新聞広告等での情報発信。3つ目が、今日これからご説明いたします、主に対面で体験型の活動をしております。その中で処分事業をできるだけ分かりやすくご理解いただけるようにということで、小中高生向けに、例えば、これからご説明いたします「ジオ・ラボ号」ですとか、ベントナイト実験等、皆さまにできるだけ関心を持っていただけるように、ということで進めています。この対面型の活動をやっていく基本的な考えは3つあります。「偏らない」「押し付けない」「体験してもらう」ということです。教育現場や小さなお子さまに我々の考えを押し付けるということではなく、できるだけ体験していただいでご自分で考えていただくような、そんな機会を作ればなと思っております。さらにVR（バーチャルリアリティ）や、ボードゲーム等、親しみが湧くようなツールもご用意しておりますので、これから2、30分ほどお時間をいただいて、担当の実松から実演を交えながらご説明をしたいと思っております。是非、皆さんも一緒に体験をしていただくようなキットがお手元にあると思いますので、ベントナイトはどういう性質のものか、手に取っていただいて、「こんなに固まるんだ、膨らむんだ」ということも体感していただければと思います。それでは実松からご説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○NUMO

バトンタッチいたしまして、改めまして皆さま、こんばんは。同じくNUMO広報部からまいりました実松と申します。中山からも紹介いたしました、なるべく皆さま方に映像を見ていただいたり、実際に手を動かしていただいて、こんな感じなんだな、というのを体験いただきながら進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

使います資料なのですが、横向きの資料、お手元にございますでしょうか？こちらに基づきながらご説明申し上げます。途中、今申し上げた通り映像ですとか、手を動かしていただくという場面もございますので、是非、ご体験をお願いいたします。スクリーンにも同じものを映してまいります、NUMOでは小中高生向けの様々なイベントやコミュニケーションツールというものをご用意しており、本日お話ししていく内容としては、表紙に記載の通りです。

では早速、1つ目の地層処分展示車「ジオ・ラボ号」のご紹介です。1枚資料をめくっていただいでよろしいでしょうか？スクリーンには、動画も流してまいります、お手元の資料も併せてご覧下さい。

この地層処分展示車「ジオ・ラボ号」は、大型のトラックの中に大型ビジョンや壁面展示を設置いたしまして、実際に内部に入ってくださいと、地下の深い所の特性であったり、それから地層処分がどうやって行われていくものなのか、というのを体感いただける展示車でございます。こちらは今、後ろから映している映像ですが、トラックの横の部分が拡幅、広がるようになっております。前方に回りますと、入口が出てきまして、中に入ってくださいと、今申し上げた通り大型ビジョンがあって、そこに映像を映し出したり、それから壁面の展示で人工バリアがどういうものなのか、どうやって地下深くに埋めていくのかな、というのが体験いただけるようになっております。ちょうどこれから中に入っていく映像です。少し照明も落としてありますので、没入感というか、少し地下深くに入ったような体験をしていただきながら、地層処分について、親子そろって体験いただける展示車となっております。実は、この「ジオ・ラボ号」ですが、今年の11月にリニューアルをしまして、その前の「ジオ・ミライ号」という展示車を寿都交流センターに8月に展覧をいたしましたので、もしかしたらその展示車の記憶があるという方もいらっしゃるかもしれません。映像は以上です。ありがとうございます。

では、配布資料に戻りまして、もう1枚めくっていただいでよろしいでしょうか？こちらのお写真、実際のイベントの様子を映し出しているものなのですが、ご覧いただきますと、お子さま方が何か実験のようなものを行っている様子が写っているのがお分かりいただけるのでしょうか？ということで、早速ですが、ここで手を動かしていただきながら、実際に地層処分を行う際の人工バリアの1つである緩衝材「ベントナイト」を今日お持ちしておりますので、その特徴がよく分かる不思議な実験を、皆さま方にもご体験いただきたいと思っております。いかがでしょうか、ご体験いただけますか？うなずいていただきまして、ありがとうございます。では、恐れいります、もう皆さまの机の上に新聞紙と実験キットをご用意させていただいております。お水を使いますので、ちょっと資料類は横によけていただきまして、お手元のご自身の前に新聞紙とキットが来るようにしていただいでよろしいでしょうか？一旦置いておいていただき、この実験の解

説、ベントナイトがどうやってできるのかな、というのをお子さま方にも分かるように動画をご用意しておりますので、まずはそちらをご覧ください。正面のスクリーンをご覧ください。

【ベントナイトの特徴と実験の動画放映】

○NUMO

ありがとうございます。途中を抜粋してご覧いただきましたが、いかがでしょうか、今の映像だけで大丈夫ですか？1回、職員によるお手本をご用意していますので、おさらいの意味でご覧下さい。

まず、お水が入ったコップがありますので、お水が漏れないように蓋をしておりますので、捨りながらゆっくりと蓋を取って下さい。そして、ベントナイトが入ったアルミのお皿をご用意しておりますので、そちらを手に持っていただいて、コップは利き手に持っていただいた方がやりやすいと思います。そして、コツなのですが、なるべく下から持ちましょう、ひっくり返します。なるべくコップとアルミのお皿を近づけていただいて、あとは、ご自分のタイミングで素早く、うまいですね、さすがです。ありがとうございます。このように、水の入ったコップでベントナイトに蓋をするような感じでしょうか。やっていただきたいのですが、お召し物が濡れないように、是非、テーブルの上の新聞紙の上でやってみて下さい。あとは、ご自分のタイミングでお願いします。このコップの中に水が残っていれば大成功ということで、その様子を是非、観察してみてください。では早速どうぞ、お願いします。

「あっ」という声が聞こえましたが、大丈夫でしょうか？あとは、自分のタイミングですよ、いかがでしょうか？お席にティッシュと各箇所ウェットティッシュをご用意していますので、必要な方はそちらもご利用下さい。大丈夫でしょうか？

はい、どうぞ。大丈夫ですか、はい、大成功ですね。ありがとうございます。ベントナイトの役割というのはもうご存知かもしれませんが、人工バリアの緩衝材ということで、このように水に触れると膨らむ、そして水みちを塞いでくれる、というような特徴がありますので、例えば、地下に埋設したときに、地下水とガラス固化体、それからオーバーパックが地下水と接触しないようにという役割。それから、動画の中にもありましたが、水が触れたベントナイト、ちょっと指で触ってみて下さい。先ほど、最初はサラサラですよと言いましたが、ちょっとペタペタしている様子、わかりますか？このように、ベントナイトは吸着力、ものをくっ付けるという力にも優れているので、放射性物質が移動するのを遅らせてくれる、というような効果が期待できるということを、実際のイベントではお子さま方とコミュニケーションを取りながら、また一緒にいらっしゃるご家族の方にお話をしながら体験をしていただいております。大丈夫でしょうか、成功しました？ちょっと持ち上げていただくと、そのまま持ち上がったりとか、あとは、コップ周りのベントナイトをはがしていただいて、蓋の部分のベントナイトがカチカチになっている様子等、触っていただくと面白いかなと思います。不思議なベントナイトの実験でした。ありがとうございます。

では、一旦体験は以上で終了させていただきまして、実験キットは、後ほどこちらで片づけま

すので横に置いておいていただいて、配布資料に戻りましょうか。いかがでした、大成功ですか？皆さん。ちょっとうなずいている方と、「うーん」という方といらっしゃると思いますが、ご協力ありがとうございました。

では資料に戻ります。実は今ベントナイト実験の動画をご覧いただきましたけども、その他にも様々なコミュニケーションツールということで、こういったボードゲームも用意しております。小さいのでスクリーンにも映しておりますが、こちらはサイコロを振って駒を進めていくというものですけれども、3～4名のグループで1班になって、ある架空の自治体の議員さんになったつもりでプレイをしていただくゲームです。この架空の自治体の市町村の中から、「どこが地層処分場に好ましいか」というのを相談しながら議論していくというゲームです。こちらは実際にプレイする時間はないのですが、実物をこちらにもご用意しておりますし、後方のお席にもゲーム自体をご用意していますので、後ほど、休憩の時間等にご覧いただければと思っております。

では続きまして、資料にもう一度戻ります。VR「バーチャルリアリティー体験」のご紹介です。資料を1枚めくっていただいてよろしいでしょうか？ありがとうございます。

本日は全員の方は難しいので、よろしければ代表者の方1名に、是非、体験していただきたいと思っておりますが、やってみたいという方いらっしゃいますか？なかなかいらっしゃらないですかね。では恐れ入ります、今実験を担当した門馬が体験をしている様子をご覧いただきたいと思っております。

今日ご用意しているのは、フィンランドの最終処分施設「オンカロ」のVR映像でございます。音声を絞っておりますが、実際にはもっと大きい音で聞こえます。門馬が実際に見て首を振ったりしていると思うのですが、門馬が見ている映像と全く同じものが正面のスクリーンに投影されています。このような感じで、専用のVRゴーグルを着けて映像をご覧いただくことで、あたかも自分がその場にいるかのような映像を疑似体験していただけるというのが、このVRでございます。いかがでしょうか、何となくこういうイメージだなというのは、お分かりいただけただけでしょうか？ありがとうございます。こちらのVRに関しましても、休憩の時間等に皆さまに体験していただけるように、後方の席にご用意しておりますので、是非お立ち寄りいただければと思っております。

では、また資料に戻りまして、今映し出しているオンカロの映像をご覧いただきましたが、同じページの下段に書いてあるもので、幌延町の深地層研究センターの映像もVRでご用意しております。こちらはスマートフォンなどでQRコードを読み込んでいただきますと、ご自身のスマートフォンで360度操作をしながら幌延の映像がご覧いただけるようになっております。こちらでも、ご興味のある方は、後ほどご覧になって下さい。

では、次のページにまいります。NUMOでは、様々な小学校、中学校、高校生の学校に向けて出前授業というものも行なっております。職員が直接出向きまして、地層処分のお話をしたり、先生方のご要望に応じて意見交換をしたりとか、あとは、本日ご紹介している様々な体験型のツールを使って体験型の授業をしたりとか、そういった臨機応変な対応もしておりますので、是非参考にご紹介をさせていただきました。また、このご時世ですので、オンラインでの授業も承っております。

では、次のページにまいります。学校の授業で、例えば、先生方が地層処分についてお話ししたいというときに、何か教材があった方が良くという先生方からのご意見をいただきまして、こちらのような、皆さま方にも配布をさせていただいております、NUMOの基本教材というものもご用意しております。ピンク色の表紙が小学生向け、白い表紙が中学生向け。そして、少し分厚い冊子のようにになっているものが教師用解説編ということで、実際に先生方が子どもたちにこんなお話をしたらいいんじゃないかという、学習指導要領に則った目的やねらい等を記載しております。実際に授業でお使いいただけるワークシート等も載っておりますので、こちらも併せてご覧ください。ちなみに、こちらの基本教材に関しては先生方に監修をしていただいて、一緒に作成したものです。

そして最後になりますが、1つ変わった取り組みを参考にご紹介いたします。最後のページです。ディベート授業というものです。ディベートというのは、もしかしたらあまり聞きなれないかもしれませんが、答えが出にくいある1つのテーマに対して、2つの立場に分かれて話し合っていて議論を深めていくという、討論型のゲームです。こちらは、ある大学で実際に地層処分をテーマにして行ったディベート授業の様子です。こちらに関しましても、お配りしました資料のQRコードを読み取っていただきますと、実際にディベート授業に取り組んでいただいている先生のお話ですとか、議論の様子というのがご覧いただけるようになっておりますので、ご興味のある方は、後ほどご覧いただければと思います。NUMOとしては、このディベート授業に関しましては、地層処分に関する情報提供や関連した施設見学の協力ということをさせていただいております。

ということで、短時間で内容を詰め込んでしまいましたけれども、NUMO広報部として、小中高校生に向けた、もちろん、ご家族の方含めてなんですけれども、そういった若い方々に対してどのような取り組みができるかというのを、実演を交えてご紹介をさせていただきました。本日もご紹介した、こういったコミュニケーションの手法というのが、将来を担う若い世代の皆さま方の地層処分に対する考え方、知識を得ていただくこと、あとは、主体的に自ら考えていただいて議論をしていただくきっかけづくりの1つになれば、ということをお願いしております。

私からの紹介は、以上とさせていただきます。ご清聴いただきまして、ありがとうございます。

○NUMO

ただ今の内容につきましても、後ほどの意見交換の場で、ご質問等あれば忌憚なくいただければと思いますが、今ご案内がありました通り、後方のテーブルの上にベントナイトやボードゲーム、VR、先ほど「ちょっと手を挙げて前でやるのはなあ」と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、後ほど、後方で休憩時間等にご体験できるということですので、是非チャレンジしていただけたらなと思っております。

それでは、ここから意見交換の場に入りたいと思います。ここからの進行は、ファシリテーター竹田先生をお願いいたしたいと思います。誠に恐れ入りますが、マスコミ各社の皆さまは、ここからご退出をよろしくお願いいたします。中継は一旦ここまでとなります。それでは竹田先生、

よろしく願いいたします。

< (3) ワークショップ 非公開 >

(4) 振り返り

○NUMO

ただ今から、ファシリテーター竹田先生より、本日の対話の場につきまして、行われたことにつきまして振り返り、ご説明の機会を取らせていただきます。ここから再び中継となります。あくまでも、マスコミ各社の皆さんに対しまして竹田先生からのご説明、ということになりますので、いわゆるインタビューとかぶら下がりとはちょっと異なる形となります。トータル10分ほど予定していますが、時間が許せば、後ほどご質問等、お受けしたいと思いますので、その時はまたご案内申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは竹田先生よろしく願いいたします。

○ファシリテーター

北大の竹田でございます。今、皆さま方と対話をしてきた結果を全部並べてみました。今日はかなり意見も出ましたし、議論が活発でしたので1つ1つ順番にお話をしていこうかと思います。皆さまには、今日の議題について紙が手渡しされていると思いますので、それを見比べながらお話しを聞いていただければと思います。

まず、ピンク色の紙が今日の議題です。議題に対して、グリーンの紙が問いがあったものです。それに対してどう答えたか、というようなことが黄色の紙で書いてあります。順番にいきます。

町民の皆さまにお集まりいただきやすい機会づくり。なかなか説明会等、参加者数が伸びない等、そういうような課題がありますので、どういう提案をしていったら皆さまが気楽に集まってこういう議論ができるかどうか、というご提案をさせていただいて、それに対する意見をいただきました。そのセットとして、小中高校生向けにNUMOの広報活動はどういうふうなコンテンツがあるか、ということをお話しいただきました。

まず、「町民の皆さまにお集まりいただきやすい機会づくりについて」というご提案については、「なかなか提案しても難しいので、全員参加という選択肢、こういうことも必要なんじゃないか」というご意見。著名な方、著名人を講師に招聘した講演会、各種イベントというところについては、「どのような著名人を意識していますか」ということがありましたので、この人のお話を聞いてみたいとか、SDGsや最近エネルギー問題がありますので、そういう話も出ておりました。それから、小学生向け資料、こういうものがNUMOのホームページ上でもあるんですけども、これを説明させていただいたところ、「原発と火力発電、これが同じように書かれているんじゃないか」というような、これはご指摘ですね。「それぞれゴミといってもゴミの質が違うでしょう、ということをしっかり伝えてくださいね」ということもご提案としていただきました。

「小学生向けの資料ですので、それぞれの危険性が違うということがしっかり伝わるか不安です」と。「小学生が理解できますか」というご指摘もいただきましたので、それについては、「先生方

とどのような伝え方ができるか事前に相談するようにしている」とか、「それぞれの児童が主体的に考えていただくことを大切にしている」というご説明がありました。同じように、「お集まりいただきやすい機会づくり」という関係でご説明をしておりますが、「町1つの単位ごと、町内会ごとに行ったらどうですか」といった話もあったんですけども、今まで町主体の住民説明会があったものの集まりが悪かった、ということで、「テレビやパンフレット、他のメディアも活用して一人でも多く知ってもらうように努力をしていきます」という回答でした。

あと、パンフレットというご提案があったんですね、この中に「分かりやすいパンフレットを作ります」というのがあったんですけども、「動画のほうがいいんじゃないですか」というご意見がありましたので、そういう内容ですね。「VRの映像はフィンランドから借りているけれども、検討していきたい」という話をしていました。

あと、親子体験ですね。どうしても広報のものということになると、子ども向けというところになってしまうのですが、「親子というところに力を入れてはどうですか」というご提案がありましたので、「そのように認識していく」というようなこと。それから、低学年の話、ここと同じですね。「小学生の子どもたちに資料をポンと渡すのはどうなんだろう、洗脳されてしまうのでは？」というような不安については、「関連する教科や単元が出てくる高学年を対象にしています」ということ。それから、併せて先生方とも事前に相談していく、ということをご回答いただいています。「先生1人でも授業を導入できるのか」、要するに、「先生が1人でやりたいと言ったらできるんですか」というところですが、1人からでも問い合わせがあるけども、新たに取り入れる場合は「学校として許可が必要ではないか？」という回答でございました。

それから、NUMOのチラシですね。メディアの皆さん見た記憶があるかと思うのですが、これに対してちょっと厳しい意見がありまして、「もっと大きな字で分かりやすく書いてくれ」と。「情報量を少なくして回数を増やしてはどうか」というところについては、「今後改善していきます」という回答をいただきました。NUMOの寿都事務所の来訪時の延べ人数については、今ははっきりした回答は、これは後ほど回答が出てくると思うんですけども、「ちょっと行きづらさがあるのかな」というような回答でした。まだ伸び悩んでいるという状況でございます。正確な数は後日改めてということでございます。

以上が、「町民の皆さまにお集まりいただきやすい機会づくり」と関連した広報の件です。このような議論がなされました。

その次にやりましたのが「幌延町の視察報告、六ヶ所村の視察報告」、この2点について、参加された会員の皆さんから、パワーポイントを使い報告をいただきました。それについて、色々な「こうしたらいいんじゃないか」というご提案がありましたので、それについてご説明をしたいと思います。

幌延です。JAEAの地層処分事業の研究開発をやっているところです。実際に350m下まで降りて行って岩盤を実際に見たり、緩衝材の性能試験を確認したり、そういうことをやりましたということをおっしゃっていました。あとは、ゆめ地層館で「核燃料を持ち込まない条例がありますよ、という説明を受けたりしました」ということとか、「地下350mに100万年前の水があることに驚いた」とか、実際に見た触れた感想ということを述べていただきました。ただ、

疑問というところで残っているのが、掘削による知見やデータが見られなかったというところや、「安心安全の言葉が多くて逆に不安になったよ」という話。見学時間の短さや専門用語の分かりづらさ、こんなところもご指摘がありました。

具体的に会員の皆さんから出た質問としては、動画を撮られていますので、「ケーブルテレビで放映してはどうですか」という話とか、あとは技術的なことですね。350mとはどのような「海拔ですか、地上からの長さですか」というご質問や、建物直径、これは多分坑道の直径とかそういう話だと思います。そういうご質問が。それから「地下の様子、気圧、気温はどうでしたか」という話。寒く無かったとか、耳が、つばを飲み込んだという話がありました。「事前に知識をもらってから視察に行きたい」という話もございました。

六ヶ所村のところ、この橙色の所が主な見学をしてきた所です。少し前と違うのは、技術的な話よりも地域の様子について非常に関心を持たれていて、村内の集合住宅と公共施設、その他が充実しているね、というところ、あるいは、石油備蓄基地があったとか、メガソーラーの話、というようなことが視察の結果として出てまいりました。

ご提案としては、「六ヶ所の地域の方と懇談ができれば」というご提案がありましたので、ここは会員の皆さまに諮ってご了解を得ていると。今後展開していくのかなと思っています。

最後のこのこの枠に囲っているところですけども、風評被害等を心配されていたようですけれども、「無いというように感じています」とか、「百聞は一見に如かず」と。「私たち自身で勉強して理解していく必要があるな」ということを感じた」というところが書かれていました。

最後に、ここから向こうが、今までいただいたクエスチョンに対する答えが残っていた部分を回答しています。

町民等の多くの方に理解を深めることが大切なので、見学とか、どういうふうに進んでいったらいいかということについては、今後、「幌延等、見学企画していきます」という事務局からの回答がございました。あと、20年、中間貯蔵施設、青森から運び出さなきゃいけないということについては、これはちょっと簡単にはご説明もご回答もできないということで、1つ大きな問いとして扱うということになりました。今申し上げた「六ヶ所地域の方との懇談交流を提案します」というところがございましたね。あと、高レベル放射性廃棄物の地層処分についての質問事項がいくつかありましたが、それについて回答をNUMOがいたしました。「もし地上に漏れ出た場合どれくらい、何年くらい後で被ばくするのか」とについては、これは放射線の話もありますので、「次回以降にきっちりやりましょう」ということになりました。ドイツのアッセ鉱山の安全と言われていた処分場が地下水で変化した事例については、技術的なところですね。岩塩の鉱山であった理由や地下水が近くにあってとか、そういうところの説明がきっちりなされました。

それから、「幌延の実験データの情報を公開してほしい」というところは、「JAEAがホームページで公開していますよ」ということとか、「幌延施設、研究等、当初の計画の変更はありましたか」ということについては、「20年程度の予定だったものが延長になっている」という説明をしています。あと、「地層処分について疑問を持つ学者を招聘してほしい」ということについては、「検討します」ということで、今後の検討事項になりました。

以上、ざっと話をしましたけれども、今回非常に活発な議論がありました。これだけの質問と

回答、意見が出たということでございます。以上です。

○NUMO

以上でございますが、予定の時間を超過してしまっていることもございますので、「どうしてもこれを伺いたい」という方がいれば、お一方だけ質問をお受けいたしますが、いかがでしょうか？大丈夫ですか。

では、竹田先生による振り返りにつきましては、これで終了したいと思います。中継はここまですべてとなります。この後ぶら下がりとなりますので、よろしく申し上げます。以上でございます。